

アウトカム評価忘れを減らすための取り組み

四国がんセンター 池辺琴映（看護師）
羽藤慎二（医師）



はじめに

四国がんセンターのクリニカルパス推進委員会（以下、委員会）は、「アウトカム評価未入力（評価忘れ）率3.0%以下」を目標に活動しているが、なかなか目標が達成できない状況だった。

今回、評価忘れを減らすための方法を検討・実践し、効果的な結果が得られたため報告する。

第20回愛媛県クリニカルパス研究会

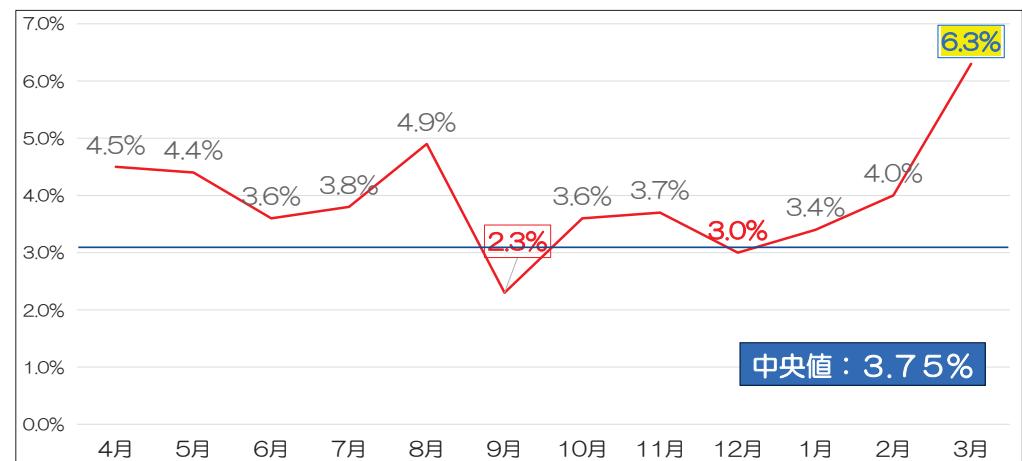
COI開示

筆頭演者氏名：池辺琴映

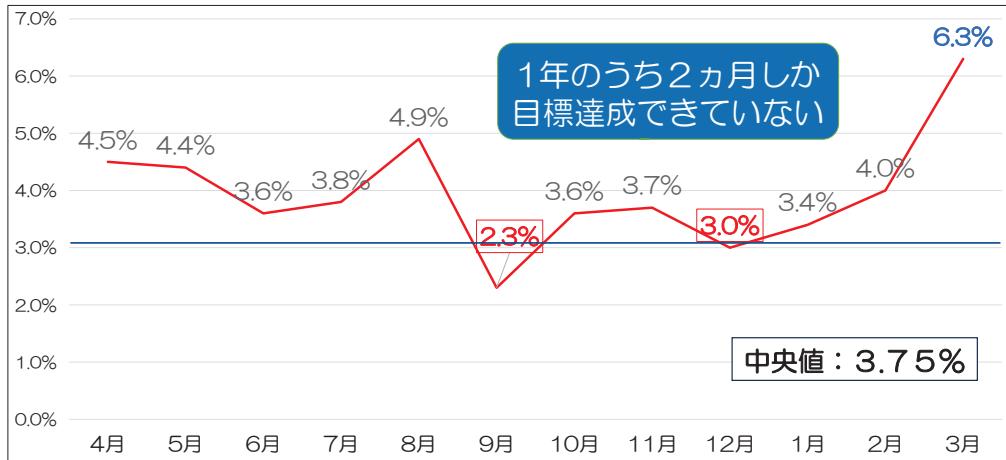
所属：クリニカルパス推進委員会

演題発表内容に関連し、筆頭演者に開示すべき利益相反（COI）関係にある企業などはありません。

2022年度 アウトカム評価忘れ



2022年度 アウトカム評価忘れ



【活動目的】

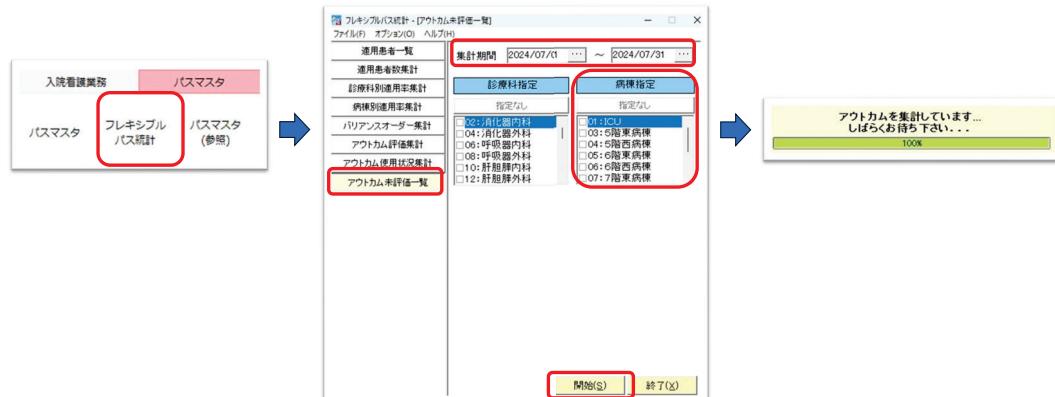
「アウトカム評価未入力（評価忘れ）率3.0%以下」を達成すること。

【達成すべき課題】

- 全てのパス委員が実行可能で、かつ勤務時間内に実践できること。
- パス委員以外のスタッフも巻き込みやすい方法であること。

対策①

- 電子カルテの統計システムを活用する方法
(前年度に周知していたが、5月11日の委員会で再周知を行った)



対策①

- 電子カルテの統計システムを活用する方法
- 全てのパス委員が実行可能で、かつ勤務時間内に実践できること。

対策①

- 電子カルテの統計システムを活用する方法

1. 全てのバス委員が実行可能で、かつ勤務時間内に実践できること。
OK ??

→バスマスター権限の事前申請が必要だが、すべてのバス委員が実行可能

対策①

- 電子カルテの統計システムを活用する方法

1. 全てのバス委員が実行可能で、かつ勤務時間内に実践できること。
OK ??

→バスマスター権限の事前申請が必要だが、すべてのバス委員が実行可能

→作業時間帯や集計期間設定によっては、データ集計に時間がかかる評価を忘れたスタッフ名の確認に、作業者の一手間が必要（評価忘れがバスを適用した病棟で表示される）
結果、**リアルタイムなアウトカム評価忘れ対策とは言えない**

対策②

- 看護師が通常業務で使用する画面にアウトカム評価を表示する方法
(6月8日の委員会で周知し、6月22日システム設定変更)

選択した患者全員を一覧で表示する「患者一覧」画面に2枠を追加
「バス」：バス適用の有無を表示
「アウト」：アウトカム評価の有無、進捗を表示

【患者一覧画面】

連番	病棟	部▲	bed	科	患者氏名	カナ氏名	患者コード	性別	年齢	入院主治医	入院日	入院白数	術後日数	看護	バス	アウト	評価	連携	検査	必要度
1	5階	501	A	消化器内				男	72歳					独歩	●	▲	○		♪	
2	5階	502	A	消化器内										独歩	○		◆	♪		
3	5階	503	A	形成外科										独歩	●	●		♪		
4	5階	505	A	消化器内										護送				♪		
5	5階	506	A	呼吸器外										独歩	●	●		♪		
6	5階	506	B	呼吸器外										独歩	●	●		♪		

対策②

- 看護師が通常業務で使用する画面にアウトカム評価を表示する方法
2. バス委員以外のスタッフも巻き込みやすい方法であること。

対策②

- 看護師が通常業務で使用する画面にアウトカム評価を表示する方法

2. パス委員以外のスタッフも巻き込みやすい方法であること。

OK

→日々の看護業務の中で全ての看護師が確認可能

パス委員以外の看護師が評価忘れを発見し、担当看護師に
入力依頼をすることができる

例) 当院のルール：アウトカム評価は原則1日一回、日勤で評価
・準夜勤で「患者一覧」を見たときに評価忘れが簡単に確認可能
・日勤の担当看護師に対して、早々に入力依頼ができる

対策②

- 看護師が通常業務で使用する画面にアウトカム評価を表示する方法

2. パス委員以外のスタッフも巻き込みやすい方法であること。

OK

現場の声から
生まれた

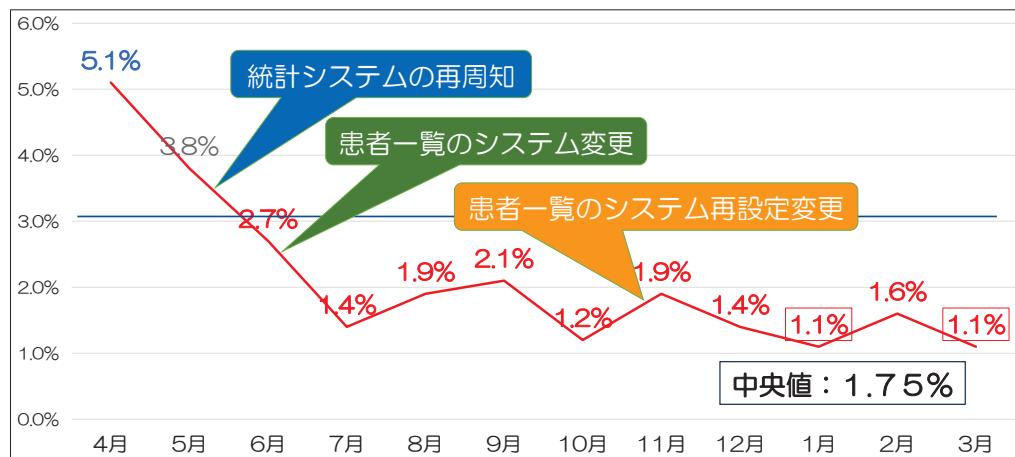
→「リアルタイムなアウトカム評価忘れ対策」への更なる発展
(10月20日システム設定変更)



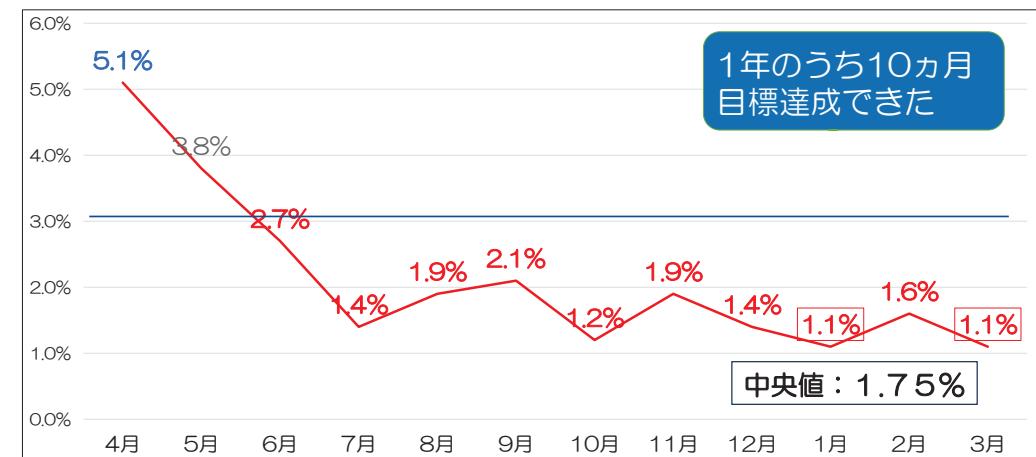
クリックすると…
アウトカム評価画面が展開

8/3(土)	
パス選用情報	肺切除
ステップ	葉切手術後1日目
経過日数	1日後
アウトカム	患者状態
	8/3(土)
●	肺切除
●	葉切手術後1日目
●	1日後
●	排液に問題がない
●	呼吸状態が安定している
●	体温の症候・所見がない
●	循環動態が安定している
●	せん妄の症候・所見がない
●	疼痛のコントロールがでている

2023年度 アウトカム評価忘れ



2023年度 アウトカム評価忘れ



結論

- ・アウトカム評価忘れの確認方法として、電子カルテの統計システムと看護師が通常業務で使用する画面表示システムを活用した。
- ・2つのシステムを活用し、評価忘れ対策を行った結果、2023年度は一年のうち10カ月が「アウトカム評価未入力率3.0%以下」となった。
- ・画面表示システム「患者一覧」の活用は、バス委員以外の看護師の協力が得られやすく、アウトカム評価忘れ対策として有用であった。
- ・今後も現場の職場環境に適したシステム活用を意識しながら、バス教育、医療の質の向上につなげていきたい。

ご清聴ありがとうございました。